

---

◎議案第27号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（斉藤 重君） 日程第7、議案第27号 平成24年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計補正予算（第1号）についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君） 議案第27号は、平成24年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計補正予算（第1号）についてであります。

詳細は担当課長をして申し上げます。

（企画観光課長 山本 公君 提案理由説明）

○議長（斉藤 重君） 以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○9番（稲葉昭宏君） 毎回毎回まつぎ荘の件については、大変なご苦勞をなさっているわけですが、今回、25年度で公社の方の委託契約が期限だということで、今回も補てん財源がまた5000万円近くを取崩すわけですが、24年度の末には7600万円しかないよと、そうすると、どうにかこうにか、25年度はこれでいくかもしれないけれど、ちょっと赤字になってもね。

だけど、これは、どういうふうな・・・、町長、いろいろ考えていると思うけれど、何らかの方向性を今から考えておかないと大変なことになりますね。これはね。その点、思いは議会の方もみんなそれぞれが知恵を絞って、いろいろ進言をしたり、提案をしたり、提言をしたりということをしているわけですが、閉塞状態ですね。これは。

どんなもんですか。どうお考えになりますか。

○町長（齋藤文彦君） 私としては、先ほど答えたわけですが、いま振興公社推進本部みたくにして1人職員を付けてやっていきたいなと私は思っているところでございます。

町としては、アドバイザーの件でいろいろ言われましたけれども、アドバイザーの報告書を見まして、それなりに私たちの考えているところをちゃんとしてくれているなとわかっていきますので、自分としては、施設管理係を1人本格的に置いてやっていきたいなと思っているところなんです。

ただ、いろいろ皆さんの民間委託等のいろいろな話もあるわけですが、民間委託等にする場合、公募することになると思うわけですが、その場合はやっぱりある程度早めに

格好をつけておかないと間に合いませんので、年度末というのはちょっと厳しいわけですが、4月のあたまくらいには、ある程度、もしそういうことにするにしても、そういう形をつけていきたいなと思っているところでございます。

それで、民間の方からもいろいろお話があって、いま2社来ているようなところでございます。ただ、町としては、いろいろ内部で考えているところでございます。

○8番（一瀬寿一君） 稲葉議員がいま話しましたことと関連しておりますけれど、私も監査をやらせてもらって、もう毎月毎月うるさく徹底的に追及して話をしておりますから、課長は耳が痛いかなと思いますけれども、いずれにしろ、指定管理者制度、これが5年間ということで、25年度で終了して、1年あるかないかというところにきているわけです。それで、やっぱり行政側の方で、町長、副町長も方向性をはっきりとしなければ、私はいつまで経ってもこれをのびのびにそのままにしておく、25年度にやれるかどうかわからなくなる。

そこで、先ほど「4月のあたまくらいには」と言いましたけれども、私は振興公社というのは、文化施設、歴史文化の町で、この松崎町においては、長八美術館、重文とか、中瀬邸、こういうところは振興公社で私はいいと思うんですよ。

しかし、まつぎき荘においては、前にも県の方へお願いして、特別のあれをお願いしたようだけれども、それも何か宿泊施設があるからだめだというようなことも聞きましたけれども、公益法人ね。それは公社の方でやったんだけど、それはまつぎき荘があるから、だめだということで、公社の方で公益法人を再度やり直さなければならないと思うんですけれども、いずれにしても、宿泊施設というのは営業ですよ。これは。ですから、やっぱりこれは単独で。私は、どちらかという、町で直営に戻すのか、それとも、民間に公募して委託をするのか。何らかの方法を考えないと、私はちょっとだめじゃないかと、そして、全国的にやっぱり行政側がやるというのは、すべてどこの行政も撤退してきているという状況で、まつぎき荘は一つの使命を果たしたんじゃないかなと思うわけです。もう45年、やがて50年になるんじゃないかと思うんですが、時代の背景で、この辺は変えていかなければならないんじゃないかな。

町民の中にもかなり「お前さんたちは、赤字でいいのか」という声も結構聞かれています。その辺は方向性を、町長も先ほどから言っていますけれども、副町長も担当課長もどんなふうに、何か思いがあるのか、その辺をちょっと聞かせてくれませんか。

○町長（齋藤文彦君） 来年度、あと1年指定管理があるわけですが、私としては、町として全力を尽くして1年やってみないと、それで、どうしようもなかったら、そういうことを考えるわけですが、1年間だけは町で本当にやってみようかと考えているところです。

○企画観光課長（山本 公君） 指定管理の関係が5年間ということで、25年度が最終年度になるというようなことでございます。指定管理の委託についての議決につきましては12月とか、その時点でいただくような形になるかと思えます。

そういたしますと、おのずからそのスケジュールというのが決まってくるわけございまして、町長が先ほど申しました年度末、あるいは4月の段階までにはある程度結論を出しませんとなかなかそこまでもっていけないというようなことがあろうかと思えます。

そういうことですので、先ほど民間あるいは直営とか、その他売却とか、いろいろ諸々選択肢があるわけですが、早いうちに方向性を決めていきませんと、公募するにしても間に合わないという状態が考えられますので、あと、町内への影響等々も踏まえた中で結論を早急に出ささせていただきたいと思えます。

○8番（一瀬寿一君） 補正予算ですから、ここでその議論をあまり深くいたしませんけれども、いずれにしろ、早いうちに方向性を、早く内部で検討していただいた方が私はいいと思えますよ。というのは、やっぱり今の状況で、振興公社と行政側がまず振興公社に委託して、振興公社からまたまつぎ荘の支配人に、3段階くらいに分かれていますから、直通にはなかなか伝わらない。職員も1人しょっちゅう来ているということなんですが、その辺もちょっと親方日の丸でやっているんじゃないか、このような状況ですから、この補正予算に反対するんじゃないですね。

しかし、今後の方向性だけはしかとここで私は言っておかないと、こう思っておりますから、その辺を承知しておいてください。

○議長（斉藤 重君） 答弁はいいですね。

（一瀬議員「はい」と呼ぶ）

○議長（斉藤 重君） ほかにございませんか。

○6番（土屋清武君） ちょっと教えていただきたいと思えますけれども、6ページの資金計画の所です。資金計画で前年度未収金が今回2231万8000円を補正しているわけですが、この内容をちょっと教えていただきたいと思えます。

○企画観光課長（山本 公君） 今回の未収金2231万8000円を今回補正して、2431万8000円にするという内容でございますが、クレジット関係、クレジットカードの関係、今後を見越しての予算になっているわけですが、クレジットカードの関係で1940万円くらい、あと、クーポンの関係で150万円くらい、その他300万円くらいということで、総額2400万円になるということでございます。

○6番（土屋清武君） クレジットカードの場合については、どのくらいで現金化されますか。

○企画観光課長（山本 公君） 2週間から1カ月くらいだということで伺っています。

○議長（斉藤 重君） ほかにございませんか。

○1番（藤井 要君） これは補正ですから、そんなに詳しいこともあれですけど、去年の答えも今回の答えも町長はがんばるしかないよというようなことしか・・・、これは毎回聞く度に同じようなことで、もう飽きちゃったわけですけども、売上も伸びないのも利用客が少ないと、これは当たり前のことですけども、何でしたか、JTBだとか、じゃらんだとか、るるぶだとか、そんなことしかいつも耳にしないんですけども、どんなことをやったのか、それ以外に。

○企画観光課長（山本 公君） 24年度の重点方針というんですかね。ご説明を前課長がしているかと思うんですけども、自動車学校の関係のタイアップ、自動車学校の生徒さん、東京の大学生の方なんか合宿でこちらに来て、自動車の免許を取るといような方が多い。そちらに働きかけをしているという部分、あるいはインターネットの予約の関係の強化、あるいは料理のメニューの変更ですとか、売店部分に手を入れることですか、あるいは職員共済組合等々の関係のお願いですとか、そういったものを行っております。

あと、町内の利用に関しましては、温泉入浴ですとか、あるいは法事、会食の利用、そういったものの関係のPRというんですか、利用していただくということでお願いをしてきたところでございます。

○1番（藤井 要君） いまの教職員の関係なんか、自動車学校もこの前も言って、同じなんですよね。その前の年と。やっていることは変わらないんですよ。

だから、もう根本的に、先ほど両議員なんか言っていましたけれども、何がだめなのかということを考えないとだめじゃないですか。町長。

先ほど私が言いましたけれども、町長は先ほども、今年は死に物狂いでやるようなことをもう何年も聞いて、もう私だったら、3回くらい死んでいなければならぬのかもしれないけれども、そういうところ。口ばかりで、死に物狂いじゃだめだと思っんですよ。

そして、新たに今回また専任を張り付けるというようなことになってはいますが、これは、専任を張り付けて、同じ今の役場の当局の中から回して行って、改善すると思っんですかね。本当にね。それだったら、アドバイザーの方が、お金の関係、アドバイザーがなぜ今度きれるということも中身はわかっていますけれども、本当に職員でいいのかなと思っんですけれども、町長。

○町長（齋藤文彦君） こんなことを言うとあれになりますけれども、観光客数が激減している

わけで、まつぎき荘だけが下がっているわけではありませので、ほかの所も下がっているわけですから、なかなか非常に難しいところがあると思うわけですが、私は、まつぎき荘はグリーンツーリズムの総本山にしたいと思っていて、体験型企画商品というのをある人と岩地の修学旅行をやっている人とやっているわけですが、なかなかうまく結び付かないというところがありまして、苦慮しているわけですが、これがある程度かたが付いてくるとそれなりに私はいくのではないかと考えています。

それで、職員をうんぬんとかあるわけですが、いろいろ振興公社とも内部を変えてやっていくつもりですので、1年間は一生涯やっていきたいなと、一生涯という言葉しか出てきませんが、そのような感じでやっていきたいなというところです。

○3番(佐藤作行君) 町長、今の話の関連なんです、やっぱり一生涯やる、どうにかなる、そういう思いは結構なんです、やっぱり政治というのは、やっぱり結果責任だと思うんですよ。1年間一生涯やりますと。だけど、1年間やって、また赤字が出た場合は、こういう方向でいきたいとか、そういうような方向性を出す形というのは、やっぱりある基準を自分で示して、それで、こういう形で一生涯やって、それに到達しなくて、また赤字が続く、あるいは一般会計から繰り入れなければならないというような状態になった場合は、やっぱりもうはっきりした方向を出さなければならないというような基準というのは頭の中にありますか。そこらをちょっとお願いします。

○町長(齋藤文彦君) 基準というのは、なかなか難しいわけですが、町としてもですね。何と言いますか、町がこういうのを経営するというのは、本来はうまくないと思うわけですが、こうやってきたわけですから、今は振興公社が中心になってやっているわけですが、一回町が施設管理係を1人付けて、内部を改造しながら1年間やってみないと、これくらいしか今は言うことはありませんけれども、そういうところがございます。

○7番(関 唯彦君) 先ほど町長が伊豆まつぎき荘をグリーンツーリズム総本山にしたいと言ったもので、ちょっと聞きたいんですけど、都市との交流ですから、グリーンツーリズムは。その関係で、私はグリーンツーリズム関係は振興公社の方だと思って、伊豆まつぎき荘ではないなと思っていたんですけど、伊豆まつぎき荘でどのくらいのグリーンツーリズム関係の売上があるんでしょうか。

○企画観光課長(山本 公君) いまグリーンツーリズムは振興公社の方でやっております。まつぎき荘も振興公社の同じ一員であるわけですが、以前お話をしたことがあろうかと思うんですが、岩地の修学旅行の関係で受け入れができない時にまつぎき荘でその生徒さんを

受け入れて、宿泊をしていただいて、岩地で体験をしていただいたというような経過がございます。

そういった形の中で、子どもたちを迎え入れるような施設というような形の活用の仕方もあるだろうということで、町長がお話いただいたかと思うんです。合わせて、いまうちの方のグリーンツーリズム振興公社の担当の者とまつぎき荘を合せた形の中で何か売ることができないかということで、エージェントさんの方に体験メニューも持って、お願いに行くことになっております。

実際に、まつぎき荘におきましてもいろんなお客さん向けのほたるを観賞するツアーですとか、あるいはところてんを作るとか、そういったものも常時開催をいたしておりますので、そういった体験メニューなんかも独自で提供して、そこに泊っていただくというようなことも考えられるのではないかと思います。

○町長（齋藤文彦君） グリーンツーリズムというのは、都市との交流ということで平成8年から松崎町はずっとやってきたわけですがけれども、これをまつぎき荘にうまく繋げられないかということでやっているところです。

その岩地の修学旅行をやっているある方といろいろ話し合ったわけですがけれども、岩地の場合は、体験メニューが多いけれども、まつぎき荘はまだ体験メニューが少ないからうんぬんという話がありますので、体験メニューさえ増えてくれば、私はそれなりの効果があるのかなと思っているところでございます。

○議長（斉藤 重君） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（斉藤 重君） 質疑がないようでございますので、質疑を終結したいと思います、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（斉藤 重君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（斉藤 重君） 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○9番（稲葉昭宏君） 公社の評議員の立場で賛成討論をさせていただきますけれども。

いろいろ議論が出ました。今回の補正は最終補正で精算的な、いわば決算に近いわけですが、いま町長とも質疑をしましたが、要は、財布が、自分の財布、まつぎ荘の財布というのは誰が持っているのかというふうなことをちょっと考えるわけですが、公社にしても委託を受けている。ところが、自分らの財布は、結局委託料一杯いっぱいやっているんだから、おれたちは何も損じゃないよとこう言う、今度は行政側にとってみれば、これはもういくら何だと言ったって、今のところは補てん財源がある。一般会計の方から貸出はしているけれども、実際懐は痛まない。どうも財布が自分の財布じゃないよというふうな感覚があっちに行ってもこっちに行っても、そんなふうな感じがする。

ところが、この25年はそれでいいでしょう。しかし、26年、27年とこんな格好でやっていたら、これはもう一般財源から26年度は出さなければならない。今のような状況だと。

そうすると、これはもう町の住民はだまっちゃいけないよ。こういうふうになるうかと思えます。そこで泡を食っても仕方がない話で、そのことはいま町長のいろいろな心中をお聞きしますと、そこらは切実に考えているようでありますから、そこらを十分に期待をして、本案に賛成をするわけですが、ぜひともこれは真剣に切実に危機感を持って考えていくべきじゃないかと思えます。

本案に賛成いたします。

○議長（斉藤 重君） これをもって討論を終了いたします。

これより議案第27号 平成24年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計補正予算（第1号）についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手全員）

○議長（斉藤 重君） 挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

暫時休憩します。

（午後 2時00分）

---